

平成 31 年度(2019 年度) 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	5 5	学校名	茨城県立石岡第二高等学校						課程	全日制		学校長名		長谷川 京子			
教頭名	正木 昇											事務（室）長名		郡司 みどり			
教職員数	教諭	3 6	養護教諭	1	常勤講師	1	非常勤講師	4	実習教諭，実習講師， 実習助手		1	事務職員	3	技術職員等	2	計	4 8
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計 クラス数				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科		7 3	8 7	6 9	8 3	5 0	9 5			1 9 2	2 6 5	1 2				
	生活デザイン科		4	3 5	0	3 8	1	3 4			5	1 0 7	3				

2 目指す学校像

- (1) 心身ともに健康で、礼儀正しく、明るく積極的な生徒を育成する学校
- (2) 生徒一人一人が、確かな学力を身に付け、個性や適性を知り、適切な進路を実現する学校
- (3) 地域社会と連携し、地域社会に開かれた学校
- (4) 日本の伝統文化に親しむとともに、国際感覚を併せ持つ生徒を育成する学校

3 現状分析と課題(数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	与えられた課題については前向きに取り組むが、予習・復習等の家庭学習の習慣が身につけていない生徒が 8 割を超えているため、授業内容の理解の深化が必要である。	学習内容の理解を深めるために、「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」を目指した授業方法の工夫・改善によって授業の活性化を図るとともに、家庭学習の習慣を身につけさせる。

別紙様式 1 (高)

進路指導	多数の生徒が明確な目的意識を持って進路希望の実現をはかっている一方で、自己理解や職業意識が乏しく、進路を意識した学習の確立が十分とはいえない者もあり、進路決定の遅れにつながるケースが生じている。	適性理解や職業観の育成, 進路に対する意識の高揚に努めるための工夫や取組を充実させる。 進学・就職に関する進路ガイダンスを充実させ、進路実現を図る。
生徒指導	服装・頭髪指導等の徹底により、90%を超える生徒は服装等の身だしなみが良好で、落ち着いた雰囲気がある。しかし、挨拶を率先して行うことや礼儀、言葉遣い等のマナーが身に付いていない生徒も見られるため、保護者・地域・関係機関との連携強化を図っている。	規範意識を高め、挨拶・礼儀などのマナーの向上を推進するため、様々な場面で、心の教育の充実（モラルの向上）を図り、自己を大切にするとともに、他人を尊重する心を醸成する。
特別活動	生徒会活動や部活動を活性化し、自発的な活動を促進するとともに、ホームルーム活動を推進し、リーダーの育成を更に図る必要がある。また、ボランティア活動などの体験活動への積極的な取組を図る必要がある。 生徒主体の環境美化や社会奉仕の活動の充実とともに、豊かな人間性を育むホームルーム活動の計画的・組織的な推進や充実を図っている。	生徒会活動や部活動の活性化に取り組む。 また、ボランティア活動や自然、文化・芸術及び交流など体験的活動の機会の拡大と充実に取り組む。
伝統文化と国際交流	現在、部活動や伝統文化を体験する行事を通して、全校生徒が伝統文化に触れている。 国際交流事業を継続するほか、国際交流機関との連携やALTを活用した授業などを通して、国際理解教育に努めている。	自国文化を国際理解への興味・関心を高める機会を設定し、郷土を愛し伝統文化を尊重する態度を養う。 内容の検討を踏まえた上で、国際交流事業を継続させ、積極的に生徒の参加を促す。

4 中期的目標

- | |
|--|
| <p>(1) 筑翠ルネサンス事業による体験活動を充実させることによって、生徒一人一人にしっかりした職業観を持たせ、生徒の適性や個性に合った進路の実現ができるようにする。また、授業改善に努め、生徒の意欲的な学習に基づく進路実現を図る。</p> <p>(2) 部活動やボランティアなどの体験活動を通して、いろいろな人と関わり社会性を養うとともに、社会の仕組みや社会の中での自分の役割を理解し、目標を持って努力する態度を養う。</p> <p>(3) 地域社会の理解と協力を得ながら、地域の文化や特色を生かした教育活動を行い、地域に開かれた学校づくりに努力する。</p> <p>(4) 日本の伝統文化や国際交流の体験活動を積極的に取り入れ、自国文化と異文化理解を深めるとともに、国際感覚を育てる。</p> |
|--|

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
①筑翠ルネサンス事業の位置付けを明確化して実施し、日本の伝統文化体験や国際交流体験活動を定着させる。	・「本物」「一流の」体験等を通して、生徒一人一人の適性に応じた職業観の育成を目指す。 ・日本の伝統文化に対する生徒の理解を深め、郷土を愛し伝統文化を尊重する態度を養う。 ・内容の検討を踏まえた上で、国際交流事業を継続させ、積極的に生徒の参加を促す。
②基本的生活習慣の定着と規範意識やモラルの向上を図る。	・教職員自らが率先垂範し、笑顔でのあいさつやマナー、清掃、整理整頓など基本的な生活習慣の定着に努め、道徳の授業や道徳プラスの授業等、規範意識やモラルを高める取組を充実させる。 ・服装指導や生活指導を計画的・継続的に行い、生徒に自律的で責任ある生活習慣を身に付けさせる。 ・生活習慣・しつけなどの家庭の教育力の重要性について啓発し、その向上を図る。
③他の人を思いやることができ、周りに配慮することができる生徒を育成する。	・教職員は、生徒一人一人の状態や特性を踏まえ、教育的ニーズに応じた配慮や支援を継続して行い、生徒に範を示す。

別紙様式 1 (高)

	・困っていることや配慮してほしいことを、自らの方法で相手に伝えられるよう、生徒のコミュニケーション力を育成する。 ・不登校・いじめ等の未然防止と解消に向けて、早期の適切な対応に努め、また、生徒の自主性・自立性を育成する。
④授業展開の工夫改善を行い、生徒の学力及び体力向上を図る。	・授業展開の中に、「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」の3つの学習過程を設定する工夫をする。 ・体力づくり推進委員会を設置し、体育・スポーツ活動と体力の向上に取り組む。 ・授業研究や校内研修を積極的に進め、授業力の向上に努めることで、生徒の学力及び体力向上を図る。
⑤部活動やボランティア活動などの体験的な活動への積極的な取組を行う。	・教職員自らが先頭に立ち、部活動を活性化と充実を図るための取組を力強く進める。 ・生徒会の主体的な活動を促し、活動の活性化を図る。 ・スキー教室やボランティア活動などの体験的な活動への参加を促す。
⑥「なりたい」を「なる」に鍛える職業観・勤労観を育成し、生徒の希望進路を実現する。	・体系的なキャリア指導計画に基づき、生徒が目指す進路に関して理解を深めることで、進路意識の高揚に努める。 ・従来のインターンシップや大学・専門学校・企業などの見学を検証し、生徒の主体性をさらに助長するように努める。 ・生徒の進路選択のためのガイダンスや面談の充実を図り、個に応じた進路指導を一層推進する。
⑦学校図書館の充実を図る。	・学校図書館を自学自習できるように整備し、生徒の確かな学力や豊かな感性を育む場として活用する。 ・図書主任が中心となり、生徒と本を繋ぐ施策を策定し、実施に向けた教育計画を立案する。

別紙様式 1（高）

⑧保護者の声や地域の声を真摯に受け止めて、広報活動の充実を図る。	・教職員一人一人が広告塔としての意識を持ち，責任を持って学校の教育活動及び生徒の学習活動の成果を広報するとともに，生徒の確保に努める。 ・動画配信なども活用して，ホームページをさらに充実させ，学校の教育活動及び生徒の学習活動の成果を常に発信する。 ・一人でも多くの県民に，本校の教育活動を知ってもらうために，新たな広報のツールを検討し実施に努める。
---	--